

2026 年 1 月 21 日（水）  
愛知県海部県民事務所環境保全課  
環境保全グループ  
担当 森、佐藤  
電話 0567-24-2131（ダイヤルイン）  
愛知県環境局環境政策部水大気環境課  
水・土壌規制グループ  
担当 内田、中島  
内線 3050、3008  
電話 052-954-6225（ダイヤルイン）

## 飛島村における土壌・地下水汚染について

三菱重工業株式会社（東京都千代田区）が、飛島村内の同社名古屋航空宇宙システム製作所飛島工場において、土壌汚染状況調査を実施したところ、土壌・地下水汚染が判明した旨、本日、愛知県に報告がありました。

県は、同社に対し、土壌・地下水汚染対策を適切に実施するよう指導していきます。

### 1 報告内容

#### （１）報告者

三菱重工業株式会社

#### （２）報告年月日

2026 年 1 月 21 日（水）

#### （３）汚染が判明した土地の所在地

愛知県海部郡飛島村<sup>かなおか</sup>金岡 6 番の一部

#### （４）報告の根拠

土壌汚染対策法（平成 14 年法律第 53 号。以下「法」という。）

#### （５）調査結果

##### ア 土壌溶出量

次表のとおり、法に規定する土壌溶出量基準を超過しました。

特定有害物質名	測定結果 最大値	土壌溶出量 基準	基準超過 土壌検出深度	超過区画数 ／調査区画数 <sup>注 2</sup>
<sup>ひ</sup> 砒素及び その化合物	0.073 mg/L (7.3 倍) <sup>注 1</sup>	0.01 mg/L 以下	0～0.5m 2.0～5.0m	2 / 132
ふっ素及び その化合物	3.0 mg/L (3.8 倍) <sup>注 1</sup>	0.8 mg/L 以下	0～5.0m	16 / 132

注 1：（ ）内は土壌溶出量基準に対する倍率を示す。

注 2：調査対象地を 10 メートル格子で分割した区画数

##### イ 土壌含有量

全ての調査地点で法に規定する土壌含有量基準に適合しました。

## ウ 地下水

次表のとおり、法に規定する地下水基準を超過しました。

特定有害 物質名	測定結果 最大値	地下水 基準	超過井戸数 ／調査井戸数
ふっ素及び その化合物	1.1 mg/L (1.4 倍) <sup>注3</sup>	0.8 mg/L 以下	2 / 3

注3：( ) 内は地下水基準に対する倍率を示す。

### (6) 当該地の現在の状況

汚染が判明した場所は、アスファルト舗装若しくはコンクリート舗装又は不透水シートで覆われており、汚染土壌の飛散や雨水等による汚染の拡散のおそれはありません。

## 2 今後の対応

県は、事業者に対し、土壌・地下水汚染対策を適切に実施するように指導するとともに、周辺の飲用井戸の有無等を調査した上で、土壌溶出量基準を超過した区画を法に基づき要措置区域又は形質変更時要届出区域に指定します。

## 3 事業者の連絡先

三菱重工業株式会社 名古屋航空宇宙システム製作所 飛島工場  
住所：愛知県海部郡飛島村金岡5番地  
電話：052-611-2121（総合窓口）

## 4 調査対象地の概要

### (1) 面積

13,142 m<sup>2</sup>

### (2) 調査対象地の利用状況

調査対象地は、埋立地であり、1985年頃から現在まで、航空機及びロケットの組立てを行う工場の敷地の一部です。調査対象地において砒素及びその化合物並びにふっ素及びその化合物の取扱履歴は確認されていません。



※背景地図は国土地理院の地理院地図を使用

## 参考

### ○ 基準を超過した特定有害物質について

#### ・ 砒素及びその化合物

急性の中毒症状としては、めまい、頭痛、四肢の脱力、全身疼痛、麻痺、呼吸困難、角化や色素沈着などの皮膚への影響、下痢を伴う胃腸障害、腎障害、末梢神経障害が報告されており、砒素化合物の致死量は体重1kg あたり砒素として1.5～500mg と考えられています。

慢性の中毒症状としては、砒素に汚染された井戸水を飲んだことによって、皮膚の角質化や色素沈着、末梢性神経症、皮膚がん、末梢循環器不全などが報告されています。

#### ・ ふっ素及びその化合物

ふっ素を継続的に飲み水によって体内に取り込むと、0.9～1.2mg/L の濃度で12～46%の人に軽度の斑状歯<sup>はんじょうし</sup>が発生することが報告されており、最近のいくつかの研究では、1.4mg/L 以上で、骨へのふっ素沈着の発生率や骨折リスクが増加するとされています。

なお、厚生労働省では、過剰摂取による健康被害の防止の観点から、栄養補助食品として用いるふっ素の上限摂取量を1日4mg 以下としています。

(参考：環境省水・大気環境局「土壤汚染に関するリスクコミュニケーションガイドライン」)